

広報



# しゅら

村の世帯と人口

(6月1日現在)

世帯数	1,086
人口	4,982
男	2,312
女	2,371



遠足は楽しいなあ！

○：僕たちには、青い空・青い海がある。車の騒音をのがれて楽しい遠足の一日を海岸で遊ぶ子どもたち。

○：岩間で見つけた小蟹を捕え、大はしゃぎにはしゃぐ子どもたちの夢は、果てしなく広がる海の青さにつつまれる。

○：楽しいのはお昼のべんとう。みんなニコニコ顔でもりもり食べる。

○：海岸はよこさぬように、先生からの声で食べがらをかたづけよう！子どもたち。

○：水泳がでてるのももうすぐだ。ことしも事故のない明るい夏を過ごしたいもの。

○：オソンの多い空気を胸いっぱい海浜を歩かせる子どもたち。(勝元海岸で)



7 上旬号  
NO 67



許可をうけてシジミ貝採りを楽しむ観光客

# シジミ貝の採取は許可をうけて

## 遊漁料は一人百円です

十三湖でシジミ貝を採取するときは、遊漁許可をうけなければなりません。

遊漁料は百円ですが、引き替えに十三湖協のマーク入りビニール袋をさしあげ

ます。遊漁区域は、中島のほぼ中央から旧橋橋までの内側一帯と今泉・吉田松陰前の一カ所です。ともに区域は、くいで表示してありますから、監視員の指示にしたがってください。区域外でシジミ貝を採取しますと、遊漁規則によって罰せられます。

## 国民年金がかわります

保険料額の改定  
年金額の引き上げ

国民年金が今月からかわります。まず年金額ですが、障害年金の二級(非常に重

い障害)が月一万円から一萬一千円に、二級(軽い障害)が月八千円から八千八百円に、母子、準母子および遺児年金が七千六百円から八千四百円に引き上げられます。また、保険料は今年から月五百五十円になります。これは、一度に引き上げると加入者の負担が大きくなるということで、四十五年七月から四月五十年、二七年後(四十六年七月から、五十五年七月)としたものです。したがって今年度は四月から六月まで四百五十円、七月からは五百五十円です。納めまちは、このようにしてください。

い。親自身も若い世代を理解し、親の権威を回復させる為に、学習の機会があれば、積極的にそれに努力しなければならぬと思います。市浦村では、成人学習

## 社教シリーズ

⑤

子を持つ親であれば「お父さんの頭は古い」「時代は変わっているんだ」と冗談まじりにいい返されたことのない親はないと思います。それをいわれると、たいていはそんなものかと感じて黙ってしまふ。ついでに「うらさい」とどなつてしまふ。それだけ親自身も世の中の傾向に対して弱いのである。

## 学習の機会を促えよう

が遠くから電波に乗って

った親も、ブラウン管に現れるマスコミの教師と比較すれば、その魅力がなくても皆さんのお役に立ちたいと思つています。広報五月十号でもお知らせいたしましたがお知らせいたしました。相内では、成人学習

ます。昨年度は、各学級、公民館での各種講座を開設しましたが、出席者はごく一部の人達にかぎられていた事を非常に残念に思っています。「学問」と知識とは牛の口からでも得よう。「学問は一生の宝」これらの言葉は思いだし、積極的参加を希望します。

# 妊娠中絶 受胎調節の意識調査結果から

## 問題点とその対策

これまで調査結果の内容についておぼえてきたが、嫁上位時代になったとはいわれても各人は夫々深刻な悩みを持っている。よくわかると思う。

先ず初婚、初産年齢が十七才、十九才までの年代が大きなウェイトをしめ早婚の傾向にあります。これは近年の身体の発育面から

は可能であるにしても、主婦となり、母親となるための諸条件(教養の不足)等に問題があると思ふ。早婚の傾向が太田、相内、桂川と農村地帯に多いのも特徴的である。

第二点は結婚後三カ月までの間に妊ししているのが三分の一もあるが、これは早いうちに子供を産んで

事例 ○印中絶

現在29才妊しん	1②3④5⑥	子供3人
〃 31才 〃	1②③4 5	〃 3人
〃 33才 〃	1②③④5⑥	〃 3人
〃 38才 〃	1②3④5	〃 3人
〃 35才 〃	1②3④5⑥	〃 3人
〃 38才 〃	12345⑥	〃 4人
〃 41才 〃	123④⑤⑥7	〃 4人
〃 42才 〃	1①3④5	〃 3人
〃 43才 〃	12③④⑤⑥7	〃 3人
〃 44才 〃	1②③④⑤⑥7⑧	〃 3人
〃 44才 〃	1②3④5⑥	〃 3人

おこうという人も含まれていいると思ふが大部分は受胎調節の知識不足からきていると思われ。

このことは単独法や永久不妊術、リング等で単純な頭をつかわない方法をとっているが83・5%もあることと、出稼き帰りの夫を目前にして急いで避妊方法を相談している実体からも明らかである。

## 罪の意識がない

## 人工妊娠中絶

総体的には人工妊しん中絶に対する意識が低く、母体の健康上からも憂慮されるところである。オロサことについても「悪いとは思わぬ」と一概にいえない」という人が四十五人(10%)もあり、昨年16才でオロしている人や未婚者の中絶が増えているなど複雑な現代の世相を反映しているように思われる。

人間誕生という厳しゆくさが次第に失われ、この世に生れ出ようとする本人の意志とは無関係にや

第三点は妊しん中絶九回には間隔をおいて中絶しているのが特徴的であるその理由としては年見だから計画外出産だからということが多いがこれは中絶に対する安易さがあるように思われる。中絶を調節に置きかえる努力が必要である。

第四点は家族計画についてあまり男性側の協力が得られないようであるが、男性性たのみの「わつつしや何性たのかわりもねえ」とことだといわずに相互理解を深め夫婦共同で、実行して得られる健康観を感知していただきたいと思ふ。

ミからヤミへ葬り去られていく一種の殺人行為に数知れない無言の抵抗を感じるのである。豊かさの中の貧困とはこのようなことを意味するのだろうか。

母性は、すべての児童がすこやかに生まれ、かつ育てられる尊厳であることにかんがみ、尊重され、かつ保護されなければならない(母子保健法)

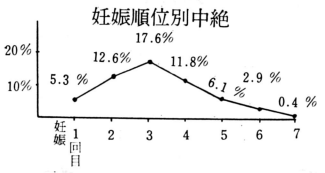
すべての児童は心身ともに健やかに生まれ、育てられその生活は保障される。(児童憲章)

## 男性の参加を求め 積極的な指導を

- ①母体保護の立場からミルトク・サランの支給、妊産婦医療の10割給付の実施
- ②戸籍の窓口、婚姻届付けから新しい対象者を把握して新婚学級や若妻学級を通し、結婚直後の妊しんが多いことから公民館活動、各種団

このことをいまだ一度考え直してみる必要がある。

この調査の結果やこれまでの健康相談、家庭訪問等の反省の中から昭和四十七年度はこれに对应するような対策を講じていく事にしている。



## 編集室から

○：手にとりやすく、しかも読みやすい「広報」にするため、これまでタブロイド版からB5版に紙面を変えました。いかがでしょうか。

○：もちろん、内容についてもみんなに親しめるものだと思いますが、そのためには、なんとしてのみみなさんご協力がなければなりません。

○：また、紙面一新ともにも題字も変えました。作者は川倉小字校に勤務の佐藤利弘先生です。先生は数年前相内小学校にいたことともあり、本村になじみのあるかたです。

○：現在は黒画壇の重鎮で、特異な画風とその芸術性は各方面から注目されています。